

のりちゃんさん

信愛幼稚園園長通信 NO.4

2022年7月20日

発行：横田 法子

1学期を大きなケガや事故なく終えられますこと感謝します。至らぬ点もあろうことと思いますが、ほっとしている新園長です。入園式以外、皆さまにお話しする機会が持てずにきましたので、クラスの様子を担当よりお伝えする折に自己紹介を兼ねて園長挨拶をさせていただきましたが、改めて通信でもご挨拶。

これまで、大阪、札幌、京都で牧師をしてきました。キリスト教教育にも携わってきました。大阪の教会では幼稚園の宗教主任を兼任、札幌ではキリスト教主義学校の牧師としてフルタイムで高校教師、京都では保育園の園長を兼任していました。幼少期の人間関係の体験が、他者を信用したり自分をあきらめなかつたりすることに深く影響していることを、多感な時期の高校生に寄り添う中で体感しました。

私が育てられた幼稚園は教会付設で、胎児の時から教会学校にも通っていました。私が私として尊重されている実感を与えてくれる大人に囲まれていました。その大人たちを通して、神さまに愛されているという絶対的な安心感を得て、他者を信用する力も育まれました。幸せな幼少期でした。こどもの頃の夢は幼稚園の先生。自分を受けとめてくれた大人のようにこどもに関わりたいと思い続け、学生の頃はやりたいことを実現できる場として駄菓子やさんを考えていました(真剣に)。信愛幼稚園で「ああよかった」と思うことは、こども一人一人のありのままを受けとめ自分から伸びようとする力を見守ろうとする大人ばかりということ。自分の幼少期に周りにいてくれた人たちのように。この信愛にお仲間入りできたことをうれしく思います。園長交代を不安に思われる向きもあるでしょうが、信愛が大切にしてきたことを変わらず引継いでまいります。

大学、高校、小学生の3人息子の母でもあります。親って難しい。親ではできないこともありますね。連携して共にこどもを育み、そして共にこどもに育まれていきましょう。お願いしたいのは、お子さんが伝えることをそのまま受けとめること。不可解、不満、心配も生じるでしょうが、伝えようとしていること自体が素晴らしいのです。全体像を正確に捉える力も伝える力もこれから身につけていくのです。言ったことが全てではありません。どうか「そうだったんだね」とそのまま受けとめることを大切にしてください。質問攻めにしたり、不安がったり、とがめたりすると、伝えるのがめんどくさくなったり、気を遣って言えなくなったり、「これは言わない方がよい」に繋がってしまうかもしれません。聞いてもらえた!受け止めてもらえた!伝わった!の体験が、安心感と「もっと伝えたい」になっていくように、「ん?」と思うことは担任に聞いてみることで、「うんうん。そうなんだね。」とそのまま受け止めてあげてくださいね。お子さんが伝える手段は言語だけではないこともどうぞお忘れなきようにお願いします。